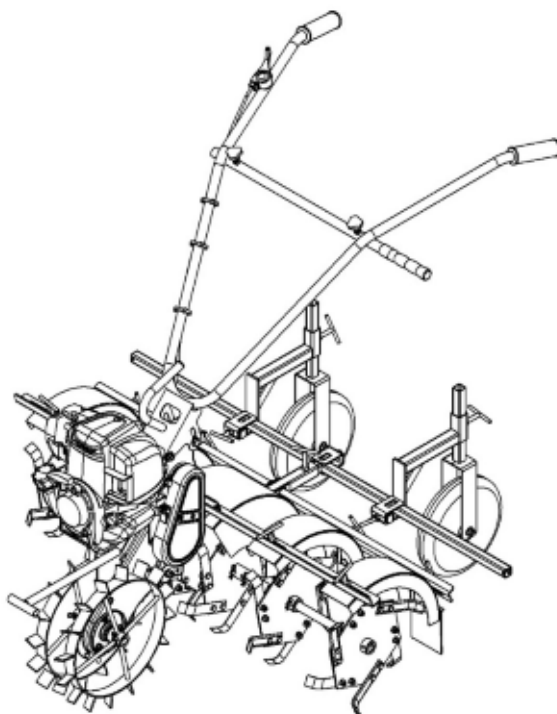


取扱説明書

はたかん

(条間作業機)

HC35XF-24(5)



出荷時エンジンオイルは入っていないので
使用前に必ずエンジンにオイルを入れてください
エンジンオイル種類はP.9をご覧ください



正しく安全に効率の良い作業をしていただくために、ぜひ心掛けていただきたいことを述べていますので、ご使用前に必ずお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後は必ず製品に近接して保存してください。

はたかんと お買い上げいただき、ありがとうございます

はじめに

- この取扱説明書ははたかんの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みにになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに弊社または弊社の特約店・販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、特約店・販売店にご相談ください。
-  付の下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

 **危険** この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載しております。使用前に必ずお読みください。

もくじ

1. 安全に作業をするために	2
2. サービスと保証について	3
3. 仕様	4
4. 本製品の使用目的について	4
5. 各部のなまえ	5
6. 安全銘名の貼り付け位置	6
7. 各部のはたらき	7
・ ハンドル ・ 延長ハンドル・スロットルレバー	
8. 運転前の準備	8
1. 組立	8
○ハンドルの組立	
○スロットルワイヤーと延長ハンドルの取付要領	
○尾輪の取付要領	
9. 運転	9～12
1. エンジンの始動、停止のしかた	9～11
2. エンジンオイルの交換	12
10. 運転のしかた	13
1. 発進・旋回・停止のしかた	13
2. 自動車での移動のしかた	13
11. 作業のしかた	14
12. 作業後の手入れ	15
・ 各部の掃除のしかた ・ 長時間使用しない場合の手入れ	
13. 日常の点検と調整	16～19
1. ウォームギヤオイルの点検・交換	16
2. 爪の交換（摩耗時の交換要領）	16
3. 本体チェーンの張りかた	17
4. チェーングリス塗布要領	17
5. 日常のエンジンの点検と調整	18～20
14. 故障と対策	21

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

▲警告 こんなときは、運転しない！

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18才未満の人

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



▲警告 排気ガスには十分に注意

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合とか、ハウス内で始動または作業する場合は十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



▲警告 作業に適した服装を

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適しただぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



▲警告 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



サービスと保証について

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

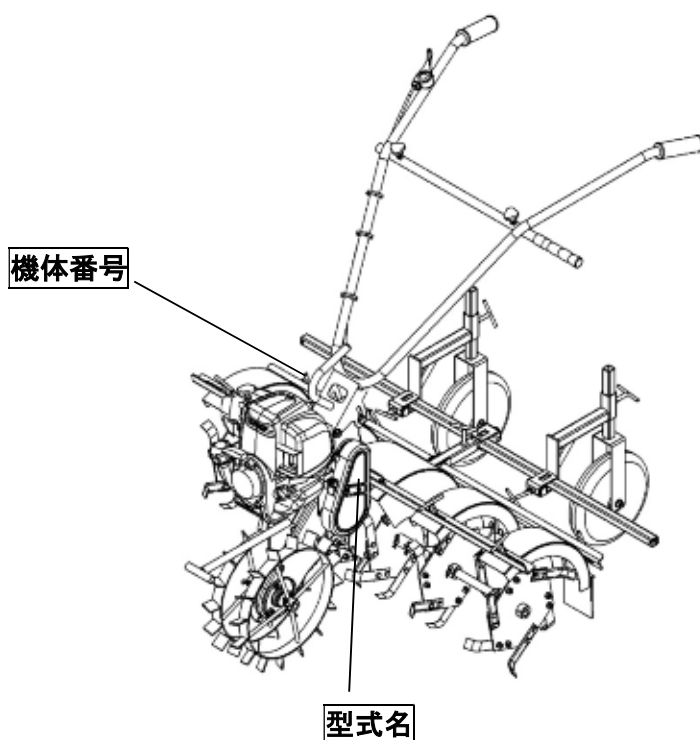
機械の調子が悪いときに 20 ページの「故障と対策」に従って点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた特約店、販売店までご連絡ください。

「連絡していただきたい内容」

- 型式名と機体番号
- ご使用状況は？
- どのくらい使用されましたか？
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後 8 年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



仕様

型 式		HC35XF-24 (5)
名 称		5 連仕様
機体寸法 長 x 巾 x 高 (mm)		1105 × 1000 × 860
重 量 (kg)		39kg
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ GX35
	総 排 気 量 (cm ³)	35.0
	使 用 燃 料	自動車用ガソリン
	エンジンオイル量 (ℓ)	0.10
	燃料タンク容量 (ℓ)	0.63
	気 化 器	ダイヤフラム式
	点 火 方 式	無接点マグネット式
	点 火 プ ラ グ	NGK CM5H CMR5H
	始 動 方 法	リコイル式
	停 止 方 法	一次線短絡式 (押しボタン式)
主 ク ラ ッ チ 方 式		遠心クラッチ
車 軸 形 状 及 び 径 (m m)		丸軸Φ15
駆 動 車 輪 (m m)		Φ250
ローター回転数 (rpm/7000)		134
走行速度 (km/h 7000rpm)		3.2
ロ ー タ ー 径 (m m)		Φ290
ハンドル調節巾 (m m)		320

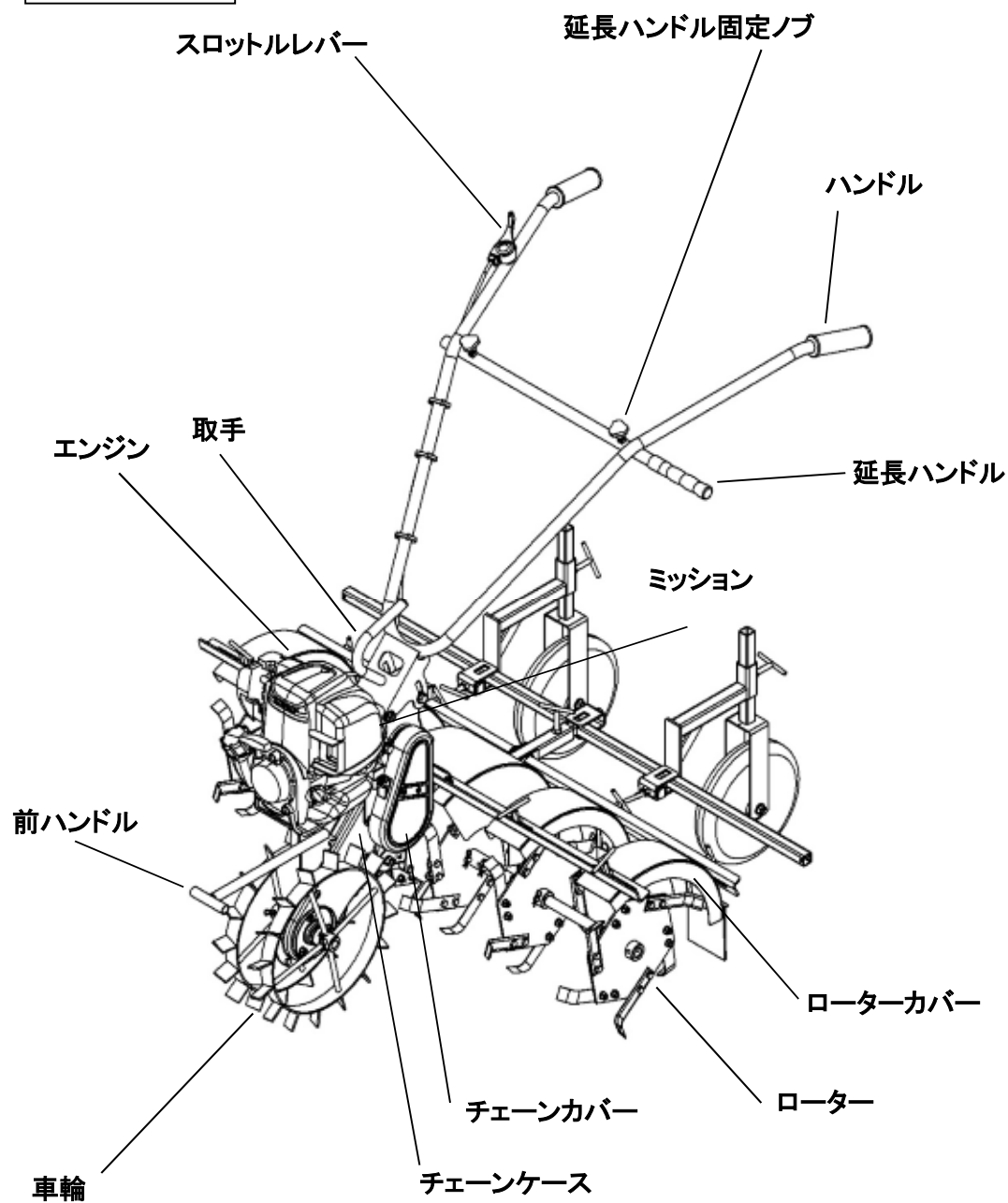
本製品の仕様目的について

本製品は作付け作物の間の中耕・除草・土寄せ・肥料の攪拌など管理作業にお使いください。荒地などの耕地作業など使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

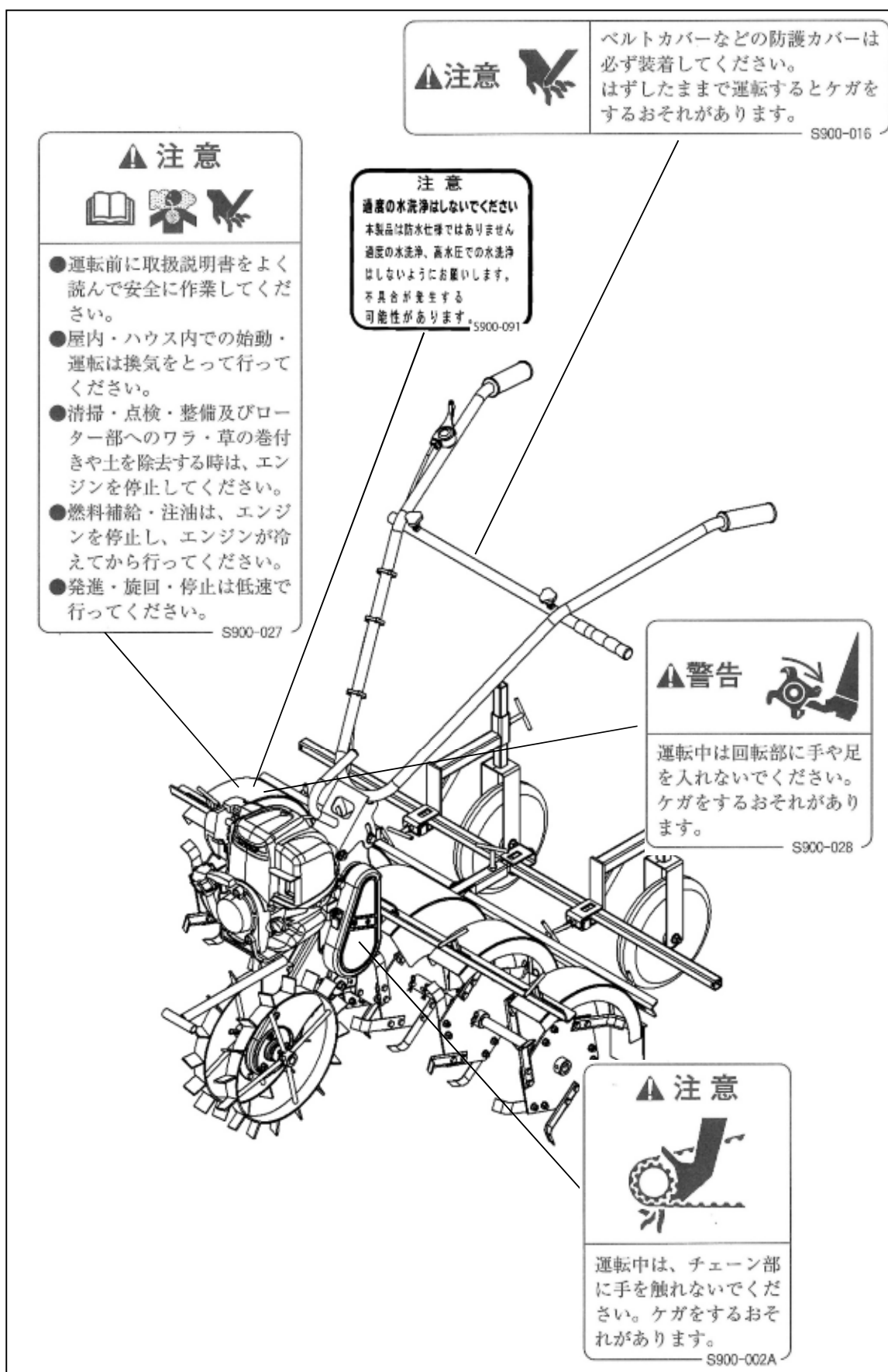
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんので注意してください。(詳細は保証書をご覧ください。)

各部のなまえ

型 式
HC35XF-24 (5)

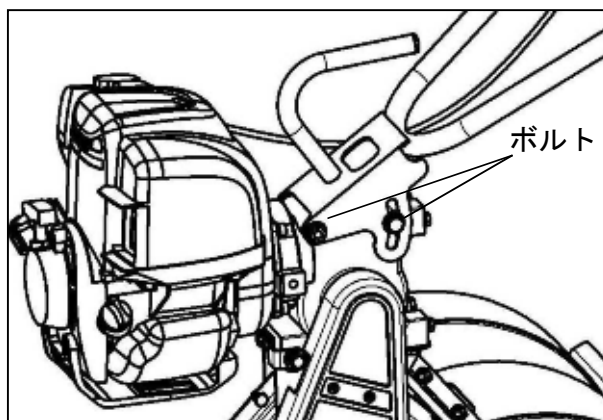


安全銘板の貼り付け位置

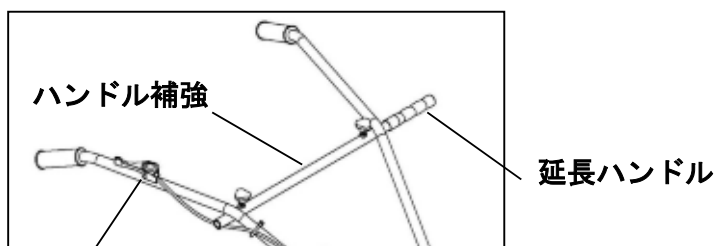


各部のはたらき

○ハンドル



作業者の体格や作業場所に合わせて、ボルトをゆるめ上下の高さ調節を行います。



スロットルレバー

○延長ハンドル

作業状態、植付状態によって適当な長さに引き出して使用します。左右いずれの方向からでも挿し込み操作できます。このため側溝などを歩いて作業が行えますので中耕した土を踏み固めることはありません。

○スロットルレバー

エンジンの回転を加速、減速するレバーです。この「条間作業機」は遠心クラッチを採用していますので作業速度はレバーで加減してください。

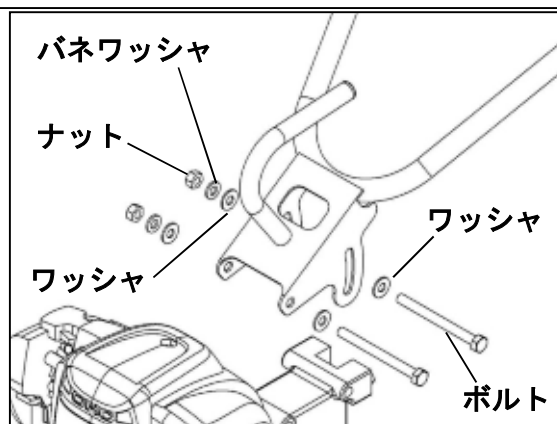
運転前の準備

1. 組立

○ハンドルの組立

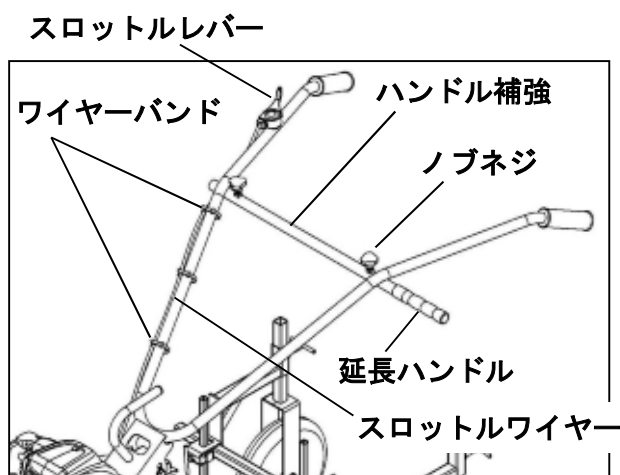
ハンドルをミッションに差し込み、ボルト2本を通した後、ワッシャ、バネワッシャ、ナットで取り付けます。(ボルトはハンドルに仮止めしてあります。)

いったん前の1本を仮留めし、次に長穴側の1本を仮留めした後に作業高さに合わせて固定してください。



○スロットルワイヤーと延長ハンドルの取付要領

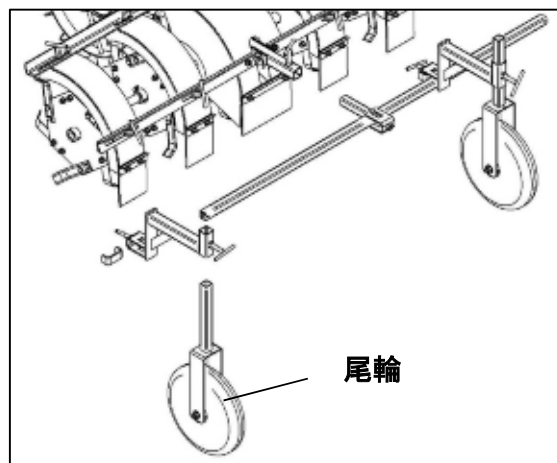
スロットルワイヤーをハンドルに添わしスロットルレバーに接続します。ワイヤーの途中をワイヤーバンドで固定してください。延長ハンドルは、ノブネジ2個を一旦ゆるめ、ハンドル補強に挿し込みノブネジ2個で締め付けてください。



注意 延長ハンドルは、作業に合わせてハンドル補強パイプの左右いずれかの方向から挿し込み出入を加減します。

○尾輪の取付要領

右図を参照して尾輪を取り付けてください。



1. エンジンの始動、停止のしかた

(1) 燃 料

▲注意 ガソリンに2サイクル専用オイルを混合した混合油を使用してはいけません。

- ・ 本機は4サイクルエンジンです。
- ・ 自動車用ガソリンを使用してください。

(2) 給 油

▲警告 火気厳禁・エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

- ・ 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。守らないと燃料などに引火して、火災をおこすことがあります。

- ・ 給油または補給のとき、こぼれた燃料はきれいに拭き取り付着がないことを確認してください。

(3) エンジンオイル

▲注意 ・ 出荷時エンジンオイルは入っていませんので、必ずエンジンオイルを入れてから始動してください。エンジンが焼き付きます。

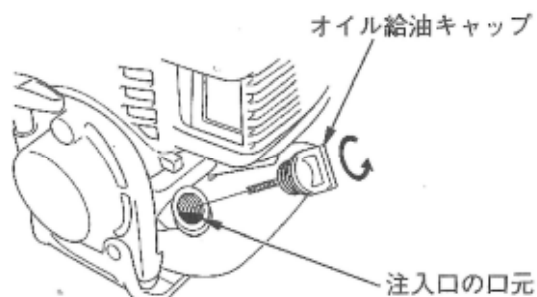
- ・ エンジンオイルの量を確認してください。
- ・ 不足するとエンジンが焼き付く可能性があります。

①推奨エンジンオイル(4サイクルガソリンエンジンオイル)

- ・ ホンダ純正ウルトラU (2 輪車用) (SAE10W-30) または API 分類 SE, SF, SG 級相当の SAE10W-30 オイルを使用してください。2サイクル専用オイルは使用できませんので注意してください。

②点検

- ・ エンジンを水平にしてエンジンオイル給油キャップを外します。
- ・ 注入口の口元までオイルがあるか点検します。オイルが少ない場合補給してください。
- ・ エンジンオイルの汚れ変色を点検します。汚れや変色が著しい場合はエンジンオイルを交換してください。



③補給

- ・ エンジンオイル給油キャップを外し新しいエンジンオイルを注入口の口元いっぱいまで補給します。
- ・ 補給後、エンジンオイル給油キャップを取り付けます。確実に締め付けてください。

(4) 始動方法

- ▲注意**
- ・ エンジンを始動するときは、5m 以内に人を近づけないでください。
 - ・ エンジンを始動するときは、機体を平坦な地上に置き、片手で本機を支えて、腰を十分におとして、安定した姿勢をとり、リコイルスターターを勢いよく引いてください。

○エンジンが冷えている場合やエンジンに燃料を補給した場合の始動

- ① プライミングポンプを指で上に当たるまで繰り返し押す。(10 回以上)

燃料戻しチューブの内側を燃料が移動するのがわかればよい。プライミングポンプを押すのは燃料を汲み上げ、始動を容易にするためです。

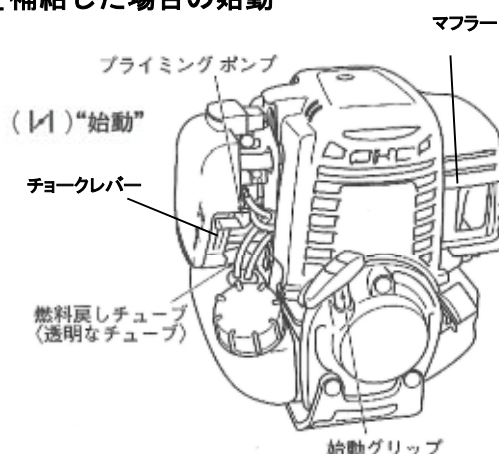
- ② チョークレバーを始動(全閉)にする。

(N マーク側)

- ③ リコイルスターターを勢い良く引きます。

- ④ エンジンが始動したらエンジンの調子を見ながらチョークレバーを全開にします。

注意 爆発音だけがあり始動しなかった場合は、チョークレバーを全開にし、再びスターターを勢い良く引っ張る。



○エンジン停止直後の始動(エンジンが暖まっているとき)

- ▲注意** エンジン始動に失敗し、何回もチョーク操作を試みると燃料を吸い過ぎ、始動困難となりますので、その場合はチョークを全開にして始動操作を行ってください。始動後スロットルレバーの開閉により、小刻みに素早く数回加速を行ってください。これは気化器内の空気を抜くためで、空気があると加速不良及びエンスト等が発生する可能性があります。

- ① 新しい燃料がプライマポンプに入るまでプライミングポンプ(ボタン)を押します。

- ② リコイルスターターを勢い良く引きます。

◎始動のポイント

リコイルスターター始動のとき

- ・ リコイルスターターは勢い良く引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びかかりやすくなります。
- ・ リコイルスターターは、ロープを全部引ききらず、またグリップから手を離さないでください。グリップの回りの部品を破損することがあります。
- ・ 運転中は、リコイルスターターを引かないでください。故障のおそれがあります。

○運転時の注意

- ・ 2～3 分間暖機運転をしてから作業を始めます。
- ・ 低速運転後、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、回転数が 3600rpm 前後のときに車輪が回転をはじめます。
- ・ スロットルレバーの位置は、作業の状態に合わせて調節します。
作業中スロットルレバーを戻すとアイドリング回転になります。引き続き作業をする場合はスロットルレバーを操作し、エンジン回転数を作業の状態に合わせて調節します。
- ・ 作業中ローターなど作業機部に異常が生じたときは、すぐにスロットルレバーを戻し、ストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押した後作業機にかかる無理な力を除きます。
- ・ 火傷防止のため運転中および停止直後には、シリンダーやマフラーなどの高温部にはふれないようにします。

(5) 停止方法

- ①スロットルレバーをアイドリング位置に戻します。
- ②ストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押します。
- ③高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり故障の原因となります。緊急の時以外はアイドリング位置に戻してから停止します。
- ④燃料は最後まで使い切らないうちに補給してください。次の始動が容易になります。
- ⑤引き続き後の作業がないときは、燃料タンクの燃料を抜き取り、再始動して気化器内の燃料を使い切ります。

2. エンジンオイルの交換

▲注意 エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度または油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

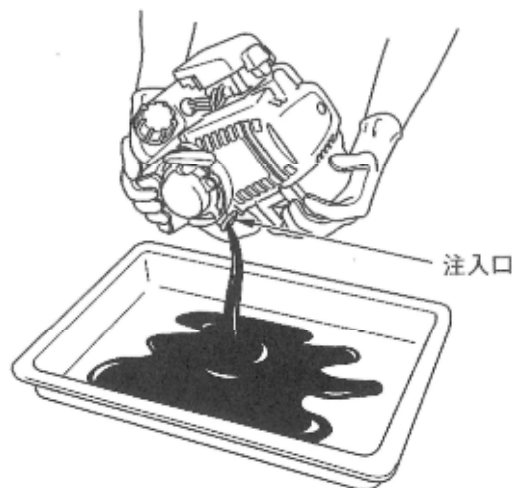
○交換時期

初めの1ヶ月または10時間運転時

以後6ヶ月毎または50時間運転時

○交換のしかた

- ・ 点火プラグキャップを外します。
- ・ 燃料タンクのキャップが締め付けられていることを確認します。
- ・ エンジンオイル給油キャップを外し本機を傾けオイルを抜きます。
オイルは容器に受けてください。
- ・ エンジンオイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平に置いてください。
- ・ エンジンオイルを注入口の口元まで注入します。
- ・ 注入後エンジンオイル給油キャップをゆるまないよう手で確実に締め付けます。
- ・ 点火プラグキャップを元通り点火プラグにはめこみます。

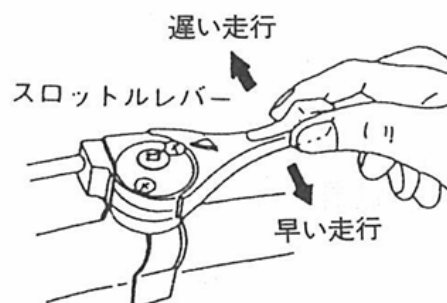


運転のしかた

1. 発進・旋回・停止のしかた

①発進

スロットルレバーを操作し、エンジン回転を除々に上げると発進します。
遠心クラッチの採用ですから、エンジン回転を上げるほど速い走行となり反対に
回転を下げると遅い走行になりますので、作業に合った走行をレバー操作で
行ってください。



②旋回

旋回または進路変更をするときは、必ずエンジン回転を低速にし、作業機部（ローターなど）を浮かして低速走行で行ってください。自走旋回できない狭い場所で別の畦に変わるときは、取手とハンドルを持って機体を持ち上げて移動させます。

③停止

スロットルレバーを操作し、エンジン回転を除々に下げ、エンジンがアイドル状態になると走行を停止します。作業を中止するときは、ストップスイッチをエンジンが停止するまで押えます。

2. 自動車での移動のしかた

▲注意 自動車への積み降ろしは、必ずエンジンを停止してから2人以上で作業してください。衝撃を加えるような積み降ろし方をするとローターなどが変形するおそれがあります。

作業状態（エンジンを上に）で積み込み転倒しないようにロープを掛けてください。

作業のしかた

- ▲注意**
- ・ローター、車輪の調節及び点検、掃除などを行うときは必ずエンジンを停止させてください。守らないとケガをするおそれがあります。
 - ・ハウス内で作業するときは、十分に換気をしてください。排気ガスによる中毒をおこすおそれがあります。
 - ・傾斜地での運転は転落・暴走のおそれがありますのでさけてください。
 - ・後進機構がありませんので、無理にバック作業をすると転倒などしてケガをするおそれがあります。
 - ・使用前に各部を必ず点検し、摩耗しているものは新しいものに交換します。
 - ・安全カバーは、衣服の巻きつき・土石の飛散などを防ぎますので必ず装着してください。

主たる作業

- 条間の中耕・除草・土寄せ
- 条間散布の肥料の攪拌

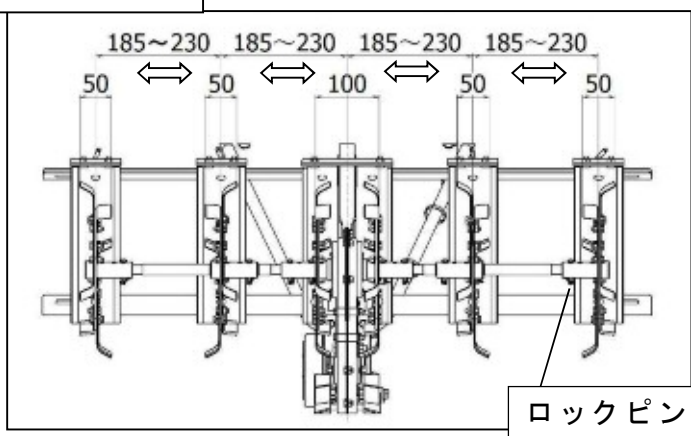
標準作業機

○ローター

条間の寸法に合わせてローター間隔を変更することができます。

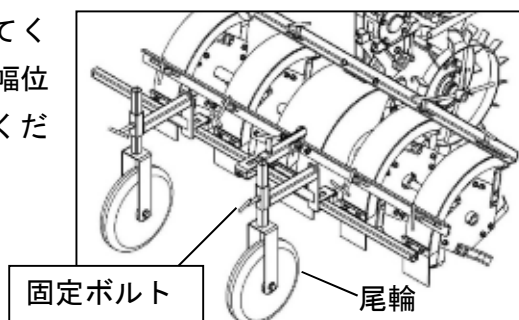
ロックピンを外してローター間隔を変更してロックピンで固定してください。

機械下方向から見て



○尾輪

条間の寸法に合わせて尾輪の間隔を決めてください。固定ボルトを緩めて尾輪の高さ、幅位置寸法を変更して固定ボルトで固定してください。



注意 低速(4000rpm)での連続作業は、クラッチシューの寿命を低下させますので、長時間の使用は避けてください。

作業後の手入れ



警告

- ・各部の掃除をするときは、必ずエンジンを停止させ回転部が完全に止まってから行ってください。守らないとケガをするおそれがあります。
- ・エンジン停止直後は、マフラー付近は熱いのでやけどをするおそれがありますので手を近づけないでください。
- ・エンジンが熱いうちにカバーをすると火災のおそれがあります。カバーをするときはエンジンが完全に冷えてからにしてください。

○各部の掃除のしかた

- ・付着した砂土は作業終了後できるだけ早めに掃除してください。
- ・ローター及び車輪に巻きついた草類は、それぞれ外し取り除いてください。
- ・水洗いは車輪部とローター一部に限り、他には水をかけないようにし、水がかかったときは拭き取ってください。洗い流した後、スプレー式防錆・潤滑剤で注油を行ってください。

本機は防水仕様ではありませんので過度の水洗浄、高水圧での洗浄はしないでください。本機内に水が入り、故障の原因となります。

- ・冷却風の吸い込み口で、シリンダー付近の草詰まりはオーバーヒート、火災の原因です。外側と内側をこまめに掃除してください。

○長時間使用しない場合の手入れ

- ・格納場所は、できるだけ乾燥した風通しの良いところにしてください。
- ・ほこり防止のため覆いをし、転倒しないようにハンドルを柱などに紐で固定してください。
- ・燃料は拭き取るか、使い切って空にしてください。

日常の点検と調整

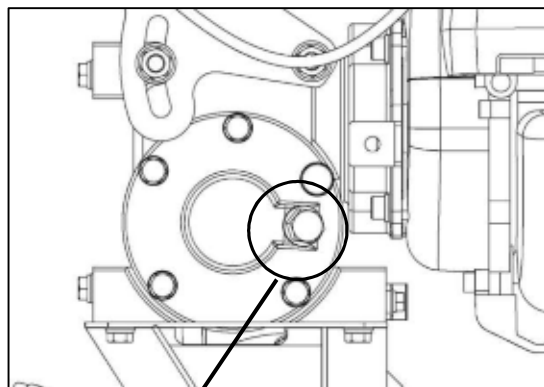
▲警告 交換・点検・整備をするときは、必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

▲注意 取り外したカバー類は、衣服が巻き込まれたりして危険ですので、必ず取付けて下さい。外したままで作業するとケガをするおそれがあります。

1. ウォームギヤオイルの点検・交換

50時間運転毎にウォームギヤオイルを交換してください。

本機を静かに横に倒し、オイル注入口を下側にしてドレンボルトを緩めます、オイルが全て抜けたのを確認の上、指定ウォームギヤオイル（ハイタックエコノギヤオイル#460）を90cc注油してください。



ドレンボルト

2. 爪の交換

1. 摩耗時の交換要領

- ①ボルト、ナットを取り外しローター爪（以後爪）をローターボス（以後ボス）から外します。

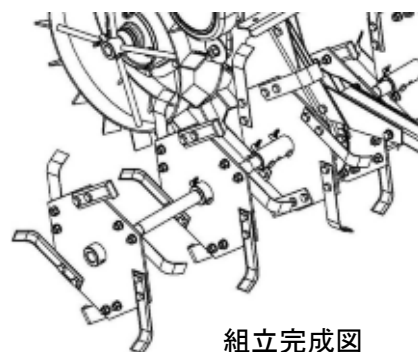
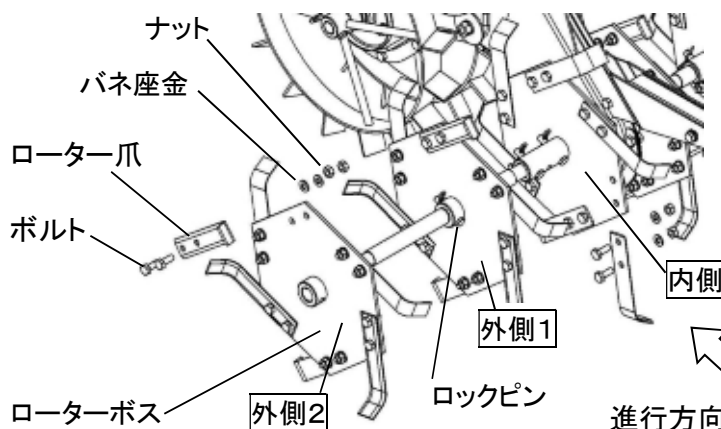
ボスの向きとロックピン穴を基準に組立てます。爪はすべて同じ物です。

- ②内側ローターの爪はすべて曲がりを内側にします。
- ③外側ローター1、2の爪は曲がりを交互に内側、外側にします。

注意 ボルト、ナットは十分に締め付けてください。

摩耗したボルト、ナットは新しいものと交換してください。

※ローター(右)は、ローター(左)の対象になりますので交換要領は上記手順同様です。

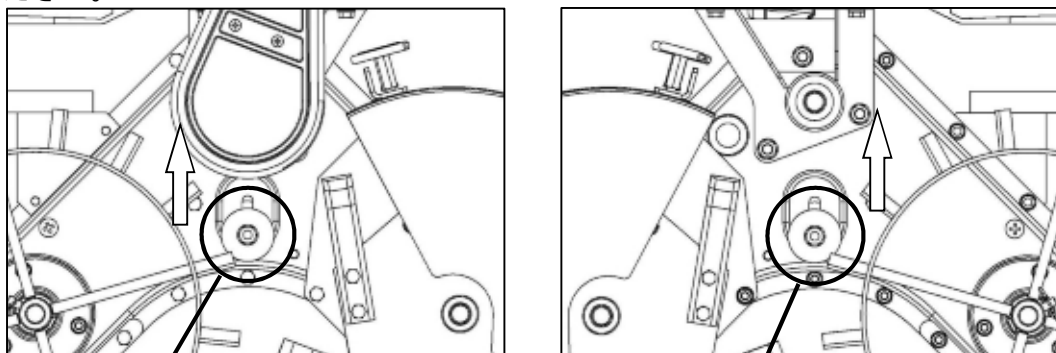


日常の点検と調整

3. 本体チェーンの張りかた

本機は車輪、ローター等への動力伝達にチェーンを使用しており、チェーンは作業開始から約30時間程度で初期伸びがおこります。作業開始から約30時間目に各テンション部の六角ナット（両側面）を緩めてテンションを上に戻してください。

（スパナ等用いていっぱいを持ち上げた程度）その状態で六角ナットを締め込みテンションを固定してください。また定期的に（30時間運転毎）チェーンの調整をしてください。

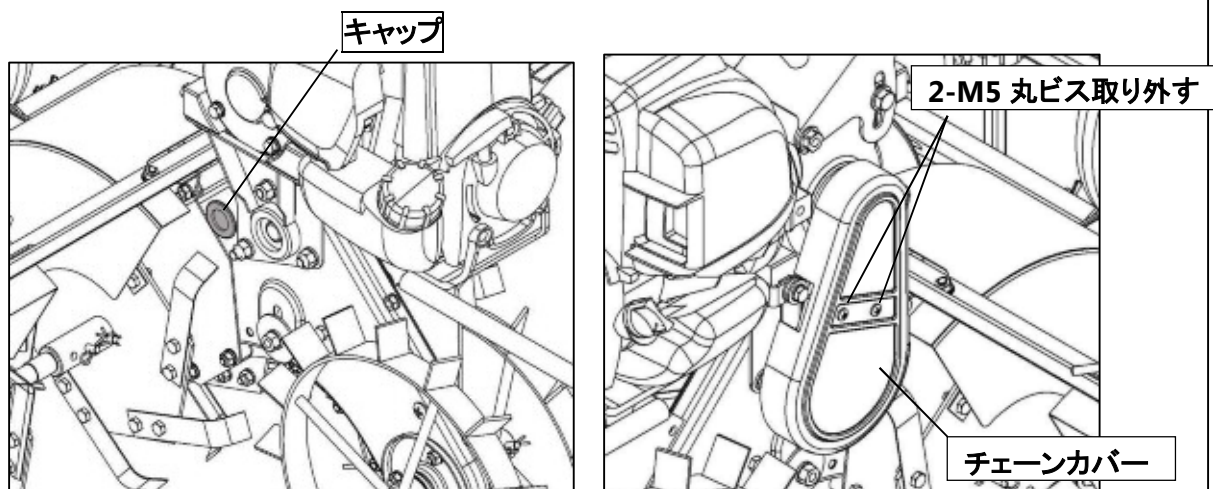


六角ナット(M8)を緩めて持ち上げることでチェーンのテンションを張れます。

日常の点検と調整

4. チェーングリス塗布要領

本機には、チェーングリスがあらかじめ塗布してありますが、50時間毎使用時に本体側面に取り付けているキャップ、チェーンカバーを取り外しスプレー式グリスを塗布してください。塗布後キャップ、チェーンカバーを本体に確実に取り付けてください。



日常の点検と調整

別冊「エンジン取扱説明書」もよくお読みください

▲警告 交換・点検・整備をするときは、必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

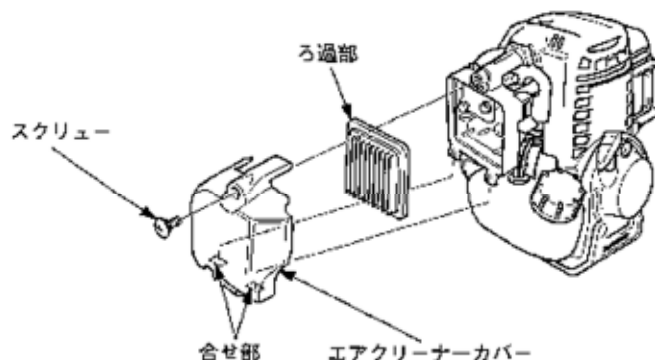
5. 日常のエンジンの点検と調整

(1) エアクリーナー（空気清浄器：紙製タイプ）の清掃

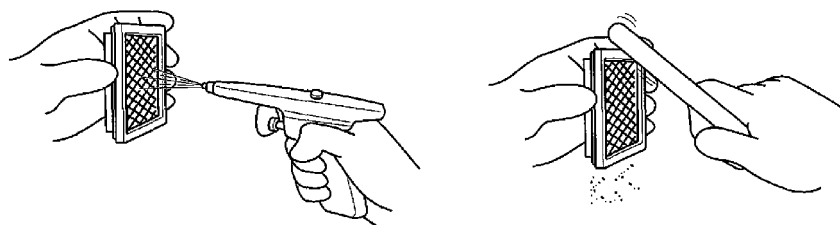
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

【清掃】

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（紙製）を取外します。
エアクリーナーカバーの取外しは、スクリューを外した後、下部の合せ部を離して行います。



2. ろ過部（紙製）の内側から圧縮空気を吹き付けるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。圧縮空気は 200kPa (2.0kgf/cm²) 以下で吹きつけてください。



3. エアクリーナーカバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。この時キャブレターにゴミ等が入らないように注意してください。
4. ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。
エアクリーナーカバーの取付けは、下部の2か所の合せ部を組付け後、スクリューを確実に締付けて行います。

▲注意 エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。
エンジンが早く摩耗する原因になります。

日常の点検と調整

別冊「エンジン取扱説明書」もよくお読みください

(2) 燃料タンク

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。12ヶ月または100時間運転毎に清掃してください。燃料を抜いた後、燃料タンク内部を洗いでよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。

(3) エンジンオイル

▲注意 エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイルの点検・交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

エンジンオイルが汚れていたり、不足していたりすると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。毎作業後点検し、補給・交換をしてください。

(4) 点火プラグ

《点検・調整時期》 …… 1年毎または100時間運転毎

《交換時期》 …………… 2年毎または300時間運転毎

《清掃》

1. 5mmソケットボルトを十分にゆるめ、トップカバーを取り外します。
2. 点火プラグキャップを外してプラグレンチで点火プラグを取り外します。
3. 汚れている場合はワイヤブラシ等で側方電極部を清掃してください。

※プラグレンチ、ワイヤブラシは別売りです。



日常の点検と調整

別冊「エンジン取扱説明書」もよくお読みください

《点検・調整》

プラグすきまを点検し、側方電極を曲げてプラグすきまを下記寸法に調整します。

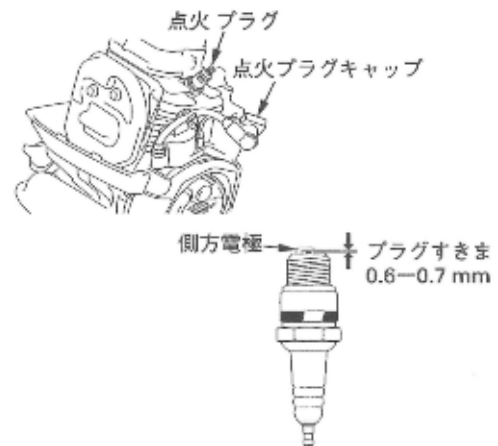
プラグすきま：0.6～0.7 mm

取り付けはじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締め付けます。

プラグキャップを確実に取り付けます。

《指定プラグ》

CM5H (NGK)・CMR5H (NGK)



故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取り付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

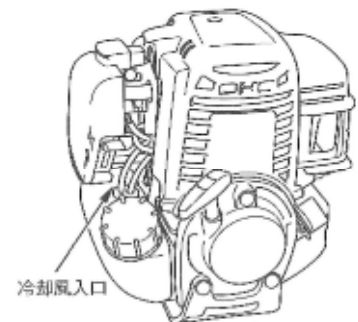
(5) 冷却風通路

注意 草詰まりによるエンジン焼き付き不具合は保証対象外となります。

冷却風入口、冷却風通路、シリンダーフィンの間等にごみ・枝が詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生しエンジン焼き付きの原因となります。作業前後に必ず清掃してください。

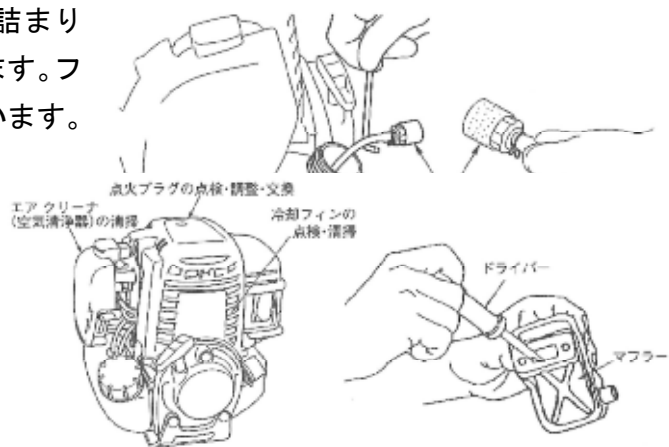
(6) 燃料フィルター

燃料フィルターが詰まると始動不良や、加速不良の原因となります。定期的にフィルターを取り出してごみを取り除きガソリンで洗浄します。よごれがひどい時は交換します。燃料タンク内にごみがあるとフィルターが詰まりやすくなりますのでガソリンで清掃します。フィルターの点検は25時間運転毎に行います。



(7) マフラー排気口の清掃

50時間毎にマフラー排気口（テールパイプ）を点検し、「ツマリ」がある場合は、カーボンをドライバー等で落とします。



故障と対策

現象	原因	対策
始動しない	・ 燃料切れ及び不良燃料 ・ 燃料フィルター目詰まり ・ 始動操作ミス ・ 点火プラグ不良 ・ コイル・イグナイター不良 ・ キャブレター不良	・ 燃料補給。交換 ・ 清掃 ・ エンジンの始動方法の項参照 ・ 交換 ・ 交換 ・ 交換
出力不足	・ スロットルワイヤー調節不良 ・ エアクリーナーエレメント目詰まり ・ 排気ポート、マフラーにカーボン堆積	・ 調節 ・ 清掃 ・ 清掃
排気音が大きくなる	・ マフラーのゆるみ	・ 増締
スロットルをしぼってもエンジンの回転が下がらない	・ クラッチスプリングの切損 ・ キャブレター調整不良	・ 交換 ・ アイドリングスクリュー・ワイヤーアジャスターを調整する
エンジンの回転を上げてても動かない	・ 車輪、ローター部に小石、紐等不要物がはさまっていませんか ・ 無理な抵抗をかけていませんか ・ スプロケットのキーが抜け落ちている ・ ウォームギヤの摩耗	・ 取り除く ・ 適切な抵抗で作業する（抵抗棒調整） ・ チェーンカバーを外し点検（販売店にご相談してください） ・ 交換（販売店にご相談してください）
作業中突然動かなくなる	・ 車輪、ローター部に小石、紐等不要物がはさまっていませんか	・ 取り除く（作業前、あらかじめ大きな石等取り除いて作業を開始してください）
作業中エンジン回転が下がり動かなくなる	・ 無理な抵抗をかけていませんか	・ 適切な抵抗で作業する（抵抗棒調整）

[illegible]

[illegible]



本社営業部 岡山市中区雄町 394-3 (086)279-6100
北海道(営) 旭川市工業団地5条3丁目3番1号 (0166)36-5115
東北(営) 仙台市宮城野区萩野町4丁目2-44 (022)232-5609
関東(営) 群馬県伊勢崎市東区粕川町 1616 (0270)21-8127
九州(営) 熊本市東区健軍3丁目45-13 (096)368-7407
本社工場 岡山市中区雄町 394-3 (086)279-0313

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			